



東と東とが会う： インドと日本のビジネス連携の強化

インドと日本は、6世紀に日本に仏教が伝来して以来、何世紀にもわたる絆で結ばれています。また、1958年にODAを通じてインドへの支援を開始して以来、日本はインドにとっての重要な経済的パートナーであり続けています。日本はインドへの投資が活発で、地下鉄や高速鉄道などの重要プロジェクトを支援しており、特に近年は、インドと日本の二国間関係は強固な戦略的パートナーシップへと変貌してきました。経済の変化が続く中、インドと日本との関係には新たな時代が到来しつつあります。

以下、この新たな時代を反映するいくつかの例を挙げます。

A. 日本の「ヤクルト」がマンゴー味をインド限定で発売



世界のプロバイオティクス市場の有力企業であるヤクルト社は、2024年7月25日、インドの消費者向けに特別にカスタマイズされた新製品「ヤクルトライト マンゴー味」を発表しました。

この戦略的活動は、プロバイオティクスの健康増進効果と、インドで人気のマンゴー味を融合させて、インド人の好みに訴え、インドにおけるヤクルトの存在感を拡大すること

を目指しています。

ヤクルトは、マンゴー味のバリエーションを導入したことで、世界的なプロバイオティクスの専門知識と、インド人の味の好みとを戦略的に融合させました。この取り組みは、ヤクルトの製品ラインアップを拡大するだけでなく、インドにおける健康とウェルネスの促進に対する同社の取り組みを強化するものです。

B. 日本のOWNDAYSアイウェア製品をインドで発売



インドの大手アイウェア小売業者であるLenskart社は、日本のアイウェアブランドOWNDAYS社と独占提携し、OWNDAYS製品をインド市場にて販売します。

日本で創業されたOWNDAYS社は、アジア最大のアイウェア小売業者に成長し、世界13か所に560店舗以上を展開しています。OWNDAYS社の製品は、日本が得意とする職人技、品質、ミニマリズムの価値観を体現し、高品質素材の使用と洗練された機能的デザインが特徴です。

Lenskart社とOWNDAYS社の提携は、高品質の国際的アイウェア製品をインドの消費者に提供する上での重要な一歩です。OWNDAYS社の卓越した職人技とLenskart社の強力な市場プレゼンスおよびインド消費者に対する理解とを組み合わせることで、こ

のコラボレーションは、スタイル、快適さ、機能性を兼ね備えた革新的なアイウェアをインド市場に提供します。

C. トヨタ、スズキとの提携拡大で初のEVを受給

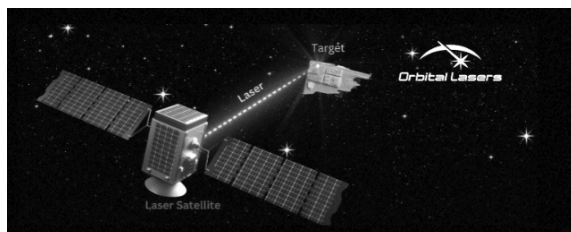


スズキ社は、世界の電気自動車（EV）市場における重要な一歩として、インド法人のマルチ・スズキ社を通じて、長年の盟友であるトヨタ社に初の電気SUVを供給します。

2019年にトヨタ社がスズキ社の株式4.94%を取得することで、両社の提携関係は強固なものとなりました。マルチ・スズキ社の人気車種であるバレーノやビターラ・ブレッツァは、ブランド名が変更され、それぞれトヨタ社のグランザやアーバン・クルーザーとしてインドで販売されます。

スズキ社は2025年春から、同社にとって戦略的な世界輸出拠点となりつつあるインドのグジャラート工場で、同社初となる電動スポーツ多目的車（SUV）の生産を開始します。

D. 日本とインドのスタートアップ企業が、宇宙ゴミ処理衛星を共同で開発



InspeCity Space Laboratories Pvt. Ltd. (インド) と Orbital Lasers Co., Ltd. (日本)

は、宇宙での整備、組立、製造（ISAM）のためのレーザー搭載衛星ソリューションを共同で開発するための覚書（MoU）を締結しました。

InspeCity社と Orbital Lasers社は、ロボット工学とレーザーシステムを組み合わせ、宇宙のゴミを減らし、衛星の寿命を延ばす、次世代の ISAM ソリューションを創出するというビジョンを掲げて前進しています。

InspeCity社と Orbital Lasers社のコラボレーションは、宇宙空間における持続可能性に関する課題に対処するための大胆な一歩となります。コスト効率が高く、拡張可能な ISAM ソリューションに対する世界的な需要が高まる中、このインドと日本の同盟は、イノベーションの推進、より安全な軌道運用の実現、宇宙における循環型経済の基盤の構築といった取り組みをリードする立場にあります。

（各写真はすべて、該当各社のウェブサイトからの引用）

著者紹介



サンジープ・ヴェルマ (Sanjeev Verma)

インド弁理士。Global IP Indiaのテクニカルアソシエイト。

無線通信の学士号と電子通信工学の修士号を取得しており、特許分析、先行技術調査、特許性調査、ドラフティング、および無線、光学、電子通信技術に関するIP戦略を専門としている。英語とヒンディー語に堪能で、GATE (ECE) (工学系大学院適正試験) に合格しており、いくつかの研究論文を発表している。ビジネスおよびイノベーションに焦点を当てた記事において、強力な技術的および分析的専門知識を提供している。

【参考】 www.unitedgips.com

